がれきの安全性疑問視

フリーライター 守田氏が原発問題で講演

四日市

【四日市】東日本大震災での原発事故や震災がれき問題について、正しい知識を持って向き合おうと、四日市市の主婦らでつくる団体「ハハプロジェクト」(朝井素子代表)は二十四日夜、被災地で取材を続ける京都市のフリーライター、守田敏也氏(五三)を講師に迎え、講演会「まず知らなきゃね！放射能から身を守るには？」を四日市市文化会館(同市安島)で開いた。

福島放射能除去プロジェクトに参加している守田氏は、外部被ばくと内部被ばくの違いや被ばくによる人体への影響など分かりやすく説明した上で、高い放射線量が計測されている側溝沿いの福島市内の通学路を、児童らが毎日、登下校に使っているという現状を画像を交えて報告。震災以降の情報公開など政府の対応を批判した。

広域処理が求められているがれきの安全性を疑問視し、食品規制のあり方にも警鐘を鳴らす守田氏。「国民を本当に守ってくださいという声を上げ続けることが一番の絆」と強調した。

広島・長崎の被爆患者を診察してきた九十五歳の医師肥田舜太郎氏の言葉「被爆したら覚悟を決め、免疫力を最大に上げること」を紹介し、「一人一人が自分の命の大事さに目覚めて、広島・長崎の被爆者の生き方に学んでください」と語った。

同市や近隣市町から約百二十人が参加し、熱心に耳を傾けた。メモを取る姿も多くあった。

被災地の実態や放射能汚染について講演する守田氏＝四日市市安島の市文化会館で

平成24年6月26日
伊勢新聞